



田村市 集落支援員

都路地区

私たちの暮らしが、
ここにある。

お問い合わせ

田村市集落支援員設置業務受託機関

特定非営利活動法人あぶくま山の暮らし研究所

TEL/FAX **0247-75-2055** 〒963-4701 田村市都路町古道字蒲生河原26番地1
メール shurakushien@asli.fukushima.jp



田村市集落支援員の活動はSNSでも情報発信しています！

ホームページ

<https://shurakushien.asli.fukushima.jp/>



facebook

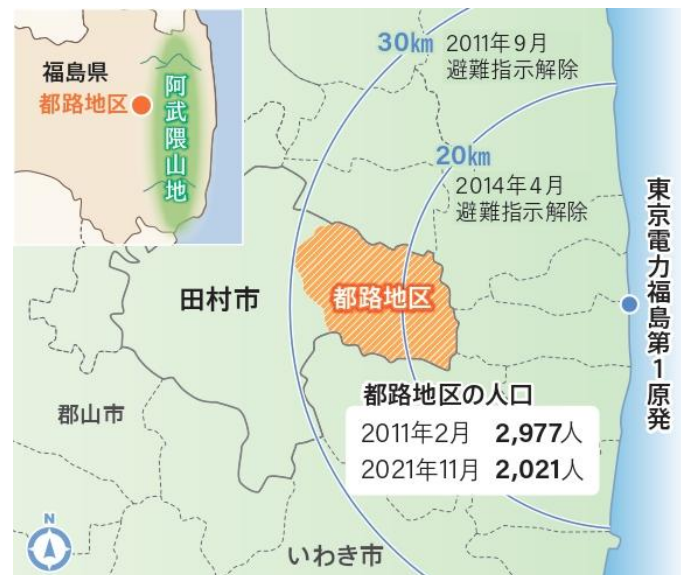


ABUKUMA
SUSTAINABLE LIFE
INSTITUTE

1. 福島県田村市都路町について



■福島県田村市観光サイト <https://visit-tamura.jp/about/>



■時事通信社作成（2021年11月）

田村市の概要

- 2005（H17）年に、旧5町村（滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町）が合併して誕生。
- 福島県の中通りと浜通りの結節点となる地域。中核的都市である郡山市から東に約30kmの位置にある。
- 市の面積458.33平方キロメートル。全体の約67%を山林が占める典型的な中山間地域。
- 阿武隈高原の中央に位置し、丘陵起伏が縦横に連続する地形が特徴。
- 人口32,316人（男性16,063人、女性16,253人）。世帯数12,326世帯。【2025年1月1日現在】

原発事故の影響

- 都路は、福島第一原発から20～30km圏内に位置。
- 福島第一原発事故により、田村市内で都路地区だけが一時避難区域となった。
- 2014年4月1日には避難指示が解除され、現在は約9割が帰還。

しかし、課題は残る・・・

- 少子高齢化、人口流出に拍車。
- 広葉樹の山とともにあった暮らしの経済的価値、文化的価値の喪失。 など

2. NPO法人あぶくま山の暮らし研究所(田村市集落支援員設置業務受託機関)について



これまでの経過

2017年7月	ふくしま中央森林組合都路事業所の所長(当時)が、地元住民と有識者らとともに円卓会議を開催。
2019年6月	有志が再び集い、ヒアリング調査・円卓会議を再開。以後、毎月1回程度、「ASLI会議」と「あぶくまkizuki会議」を実施。
2020年1月	任意団体「あぶくま山の暮らし研究所」を設立。
2023年1月27日	NPO法人あぶくま山の暮らし研究所設立認証。
2023年2月7日	NPO法人あぶくま山の暮らし研究所設立登記完了。

法人概要

150年先も、阿武隈の山とともに

【設立目的】(定款より)

この法人は、過去と未来の山の暮らしを研究し、阿武隈山地に暮らす人々に対して、住民主体の活動に対する支援協力、地域づくりの普及啓発、人材育成などの活動を行うことで、阿武隈山地の豊かな資源および文化を継承し、放射能汚染の課題に向き合いながら、持続可能な山の暮らしの再生に寄与することを目的とする。

【正会員数】18名(地元住民、林業関係者、研究者など)

【活動拠点】田村市都路町

【Webサイト】<https://asli.fukushima.jp/>



活動内容

【山づくり部門】

- ・阿武隈150年の山づくり(植林イベント)
毎年3月に、「阿武隈150年の山」構想のモデルとなる山づくりを行うことを目的に植林イベントを開催。
- ・あぶくま山のワークショップ
阿武隈地域で培われてきた山の暮らしの術を次世代に継承していくためのワークショップを不定期で開催。

【集落支援部門】 2023年6月～

- ・集落支援員設置業務(伴走支援・マネジメント業務)
山の暮らしは集落の暮らしであり、集落に自立する意欲が生まれるよう集落支援設置受託事業を実施。

3. 令和6年度 田村市集落支援員 実施体制図

西戸	松葉	平内	大槻	中作	平蔵	言神	強梨	持藤	上道之内
----	----	----	----	----	----	----	----	----	------

下道之内	石黒	新町	横町	戸屋	小滝沢	地見城	場々	南	馬洗戸	上山口	下山口	石橋
------	----	----	----	----	-----	-----	----	---	-----	-----	-----	----

大久保	頭ノ巣	合子
-----	-----	----

岩井沢地区

担当支援員 | 佐藤定信



皆さんと協力しながら、どのように活動すれば都路を楽しい地域に出来るかを検討したいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

古道地区

担当支援員 | 森谷ハルイ



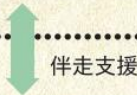
都路でいつまでも元気な生活を送っていくために、地域の皆さんに話を聞いたり話し合いをしたり、笑顔で集落支援員の役割を果たしていきます。

大久保地区

担当支援員 | 青木菜々



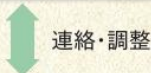
都路で生まれ育ちましたが、まだまだ知らない都路がたくさんあります。地域の方々と交流しながら、都路に恩返しをしていきたいです。



伴走支援

田村市集落支援員設置業務受託機関
特定非営利活動法人あぶくま山の暮らし研究所

理事長:青木 一典 事務局長:荒井 夢子 集落支援員担当職員:山代治恵子



連絡・調整

田村市(企画調整課)

都路行政局

旧小学校区1名配置



集落支援員OG (令和5年度)

岩井沢地区

担当支援員 | 松本文子



大久保地区

担当支援員 | 吉田イ子



4-1. 設置業務受託機関としての伴走支援(定例打ち合わせ、視察研修の実施)

① 集落巡回



ご自宅に行ったり、集会に参加したりして、都路の皆さんの声を聞いて回っています。

例えば



都路町内の行政区長さんや区会長さんに挨拶して回りました。集落支援活動をより効果的に行うためには、区長さんのご理解とご協力が欠かせません。



都路町内で住民が活動・運営しているサロンや、団体の集まりなどに積極的に参加して、情報収集・現状把握に努めています。皆さんの声を聞くことが一番大切な役割です。

② 集落支援員会議



週1回、集落支援員会議を行い、皆さんの声を踏まえて、意見交換やアイデア出しをしています。

例えば



集落支援員と設置機関が1週間の活動を振り返り、集落の声を整理しています。頭を悩ませることも多くありますが、諦めず皆でよく話し合うことを心掛けています。



集落の現状や課題を的確に把握するために、写真や動画で記録を残すようにしています。タブレットの操作方法を学び、全員で練習しました。

③ 定例打ち合わせ



月1回、市役所と打ち合わせを行い、皆さんの声を伝え、今後の取り組み等について話し合っています。

例えば



集落支援員と設置機関が1か月の活動を振り返り、率直な感想や意見を市役所の皆さんに伝えています。活動の中で困っていること、分からないことも相談します。



集落巡回によって見えてきた課題に対し、実施可能な解決策(アイデア)が生まれたら、三者が全員で知恵を出し合い、それぞれの役割を果たして実現させていきます。

④ 研修会・勉強会

定期的に研修会や勉強会を行い、他自治体の先進事例や集落対策の方法等を学んでいます。

8月7日(月)

第1回研修「集落支援員についての意見交換会」

講師：引地和子氏(二本松市集落支援員)

二本松市東和地区で活躍する引地さんに、どのような心構えで集落支援をしているか話を聞きました。集落カルテの活用や集落支援員だよりの発行などについても教えていただきました。



8月27日(日)

第2回研修「農山村の地域づくりと集落支援の取り組みについて」

講師：岩崎由美子氏(福島大学行政政策学類教授)

集落支援員制度化の経緯と背景から、集落支援の方法論に至るまで、基礎的・基本的な内容を学びました。今後の活動の参考として、事例紹介もしていただきました。



9月6日(水)～8日(金)

総務省「令和5年度 集落対策に関する研修会」

集落支援員に求められる役割と活動のポイント、集落対策に関する施策の紹介、自治体における集落支援員の活動事例紹介などについて話を聞きました。



9月23日(土)

第3回研修「地域を支援するということ」

講師：若菜千穂氏(NPO法人いわて地域づくり支援センター)

農村プロデューサー養成講座講師(農水省)や地域交通東北仕事人でもある若菜さんから、「地域とはなにか」「地域づくりとは」「地域づくりの手順と支援プロセス」を学びました。



9月29日(金)

第1回あぶくまづくり塾2023

講師：石井大一郎氏(宇都宮大学地域デザイン科学部准教授)

石井さんの話を聞きながら、自分の地域や活動を見つめ直すとともに、塾生同士が交流することによって互いに学び合い、地域づくりへの理解を深めました。



11月10日(金)

第2回あぶくまづくり塾2023

講師：石井大一郎氏(宇都宮大学地域デザイン科学部准教授)

「あぶくまづくり塾ワークシート」を用いて、自分を取り組みたいプロジェクトを「5W1H」で考えました。一人ずつ発表し、参加者全員から付箋で感想や意見を頂きました。



4-2. 設置業務受託機関としての伴走支援(住民参画の話し合いの場づくり)

住民参加型ワークショップの企画・実施

趣旨・概要

みんなが豊かな心でこれから先も都路で暮らし続けられるように、地域に眠るお宝(資源)や地域の困りごと(課題)について、みんなで話し合い、活動を具体化するためのワークショップを開催しました。

- 開催日時:2月25日(日)
13時00分～15時30分
- 開催場所:都路公民館大ホール
(田村市都路町古道本町33-4)
- 参加費:無料
- 定員:30名程度(先着順)
- ファシリテーター
特定非営利活動法人まちサガ雫石
理事長 櫻田七海さん



ファシリテーター紹介

特定非営利活動法人まちサガ雫石 理事長 櫻田七海さん

宮城県出身。現在は岩手県雫石町に移住し、2015年に特定非営利活動法人まちサガ雫石の理事長に就任。雫石町の中心市街地交流施設「しずく×CAN(しずくかん)」の指定管理団体として、この施設を拠点とした商店街振興活動のほか、地域づくり(コミュニティ支援)のコーディネートなどを担い、地域振興活動の調整役を担っている。



当日のスケジュール

- 1.開会
- 2.理事長挨拶、趣旨説明
- 3.集落支援員の活動紹介
 - ①交流スペース「ちょこっと」
 - ②『岩井沢三匹獅子舞』継承プロジェクト(p8-p9)
 - ③『集落花咲会』景観美化プロジェクト(p10-p11)
 - ④『用足しツアー』地域交通プロジェクト(p12-p13)
- 4.櫻田七海さんのお話
- 5.各プロジェクトの話し合い
 - ①こうなったらいいな(夢語り)
 - ②実現するためのひと・もの・こと
 - ③その他
- 6.休憩
- 7.話し合いの共有(p14参照)
- 8.事務連絡
- 9.閉会



『岩井沢三匹獅子舞』
継承プロジェクト
担当支援員 松本文子
目的:伝統芸能(地域の歴史や文化)を住んでいる人や移り住んだ人に伝える



『集落花咲会』
景観美化プロジェクト
担当支援員 森谷ハルイ
目的:花咲を手段とした“世代間交流”事業と人が集まる場を構築する



『用足しツアー』
地域交通プロジェクト
担当支援員 吉田ミイ子
目的:“用足し”生活の不便を解決する方法を考え、できることから始める

活動報告会・意見交換会の企画・実施

趣旨・概要

令和5年8月からスタートした集落支援員3名の活動を報告するとともに、参加者全員で意見交換し、次年度の活動をより有意義にするための活動報告・交流会を開催しました。

- 開催日時:3月17日(日)
13時00分～15時30分
- 定員:50名(先着順)
- 開催場所:
ふくしま中央森林組合都路事業所
旧オガ工場
(田村市都路町古道字蒲生河原26-1)



当日のスケジュール

- 1.開会
- 2.理事長挨拶
- 3.集落支援員の活動報告
 - 趣旨・概要の説明
 - 『岩井沢三匹獅子舞』継承プロジェクト
 - 『集落花咲会』景観美化プロジェクト
 - 『用足しツアー』地域交通プロジェクト
 - 住民参加型ワークショップ
 - 交流スペース「ちょこっと」
- 4.休憩
- 5.交流会・意見交換会
 - ①自己紹介
 - ②集落支援員活動報告の感想
質疑応答
 - ③その他
(こんなのやったら面白いんじゃないかな)
- 6.事務連絡
- 7.閉会



『岩井沢三匹獅子舞』
継承プロジェクト
岩井沢地区
担当支援員
松本文子



『集落花咲会』
景観美化プロジェクト
古道地区
担当支援員
森谷ハルイ



『用足しツアー』
地域交通プロジェクト
大久保地区
担当支援員
吉田ミイ子

4-3. 設置業務受託機関としての伴走支援(集落支援員だよりの発行)

大久保地区

担当支援員／青木菜々



第7号

私たちの暮らしが、ここにある。

令和6年11月1日発行

田村市 集落支援員だよりの 都路町



第2回 都路のみんなの「声」特集

都路で暮らしているからこそ思うこと、感じること、考えること。皆さんの飾らないありのままの声を不定期でお届けします。



田村市集落支援員の活動はSNSでも情報発信しています!

ホームページ

<https://shurakushien.asli.fukushima.jp/>



お問い合わせ

田村市集落支援員設置業務受託機関

特定非営利活動法人あぶくま山の暮らし研究所

TEL/FAX 0247-75-2055 〒963-4701 田村市都路町古道字蒲生河原26番地1

メール shurakushien@asli.fukushima.jp <https://shurakushien.asli.fukushima.jp/>



5-1. 森谷ハルイ支援員の活動紹介(R5年度)

2

古道地区 『集落花咲会』景観美化プロジェクト



担当支援員
森谷ハルイ

各集落を歩きながら、花がたくさん植わっているところが多いことに気づきました。それに比べ、小滝沢集落は何の花も咲いてなくて暗い雰囲気のように感じました。きれいな花が咲けば、みんなが集まってきて、集落の人の心も明るくなり元気になると思います。



①どのようなことにトライしますか。(WHAT)

我が集落に花の苗を植えて咲かせる。集落の人達が集まる場所にしたい。夢かもしれないが実現してみたいです。

②なぜ、あなたがそれにトライするのですか(WHY)※これまでの自分、これからの自分といったように時間軸の中にも位置付けてください。

花を見ながら地域のサロン 話し合いをする居場所
作りをえる所が必要だからです。

③どのような場所で取り組むものですか。(WHERE)

気がるに集まれる。小滝沢集会所にしました。

④いつから始めますか。またそれを実現するまでの簡単な計画を教えてください。(WHEN) ※いつまでに何やるかなど

今、話し合いを始め、植木の剪定する。4月、5月頃に花だん作りかう苗を植える計画です。
花の苗は友達に作ってもらうように頼んであり、少々は自分で作り出す。

⑤誰が、そしてどのような体制やチームで取り組みますか。(WHO) ※いつまでに何やるかなど

少人数なので、リーダーひとり、ひとり役割、目標に向かって
取り組んで行きたいと思っています。

⑥どのような応援を得る必要がありますか。どのような資源が不足していますか。(HOW)

皆に応援してもらえように、協力合い。集落の輪(大輪)
かまわりのように育てて行きたいと、思っているところです。今不足しているのは、肥料、苗の資金です。

あぶくまづくり塾2023 ワークシート

『集落花咲会』景観美化プロジェクト

目的 花咲を手段とした”世代間交流”事業と
人が集まる場を構築する



こうなったらいいな

- 昭和には、花いっぱいプロジェクトがあった
- 県立自然公園のようなところに花を!
- 行司ヶ滝へ行く所に花があったら
- 花に出会えとほっこりする
- 景観をよくする→地域の価値をあげる!

- その他
- 10人いたら、3人まとまる、4人フラフラ、3人反対
 - 地見城の有志、草刈りを男性中心で行っている(沿線10キロくらい)
 - 国道288場所がない(避難所くらい)

『集落花咲会』景観美化プロジェクト

感想・意見



- 田村市大越町の牧野では、ひまわりを育てて種を無償配布している。
- 都路町観光協会などに秋に奉仕活動をしているので、コラボができればいいと思った。
- 行司ヶ滝の上にジップラインを通して、行きはジップラインで川の上を飛び越えていき、帰りは森林の中を歩いて帰ってくるというのはどうか。
- 花が咲いたら写真を撮って、アルバムにするといい。花づくりをしたあとまで楽しめる。
- 花づくりのグループに若い人を入れて、SNSにアップするとよい。花の写真をアップして投票したりして賞を与えるなどすれば、若い人の関心を惹くと思う。
- 花を見てもらっただけでなく、民泊で家に泊めてあげたらどうか。

今後の方向性

1. まずは小滝沢集会所から

- つつじを3月中に男性に頼んで剪定してもらう。
- 5月～6月に花を準備して植える。
- 花の苗や堆肥は友人・知人から貰ったり、自分で育てたりする。
- 草刈りは男性に頼む。

2. いつかは小滝沢集落全体を

- 花いっぱいにして、みんなが集まる場所にする。
- 小滝沢集落にある都路の宝「行司ヶ滝」も大事にする。



5-2. 森谷ハルイ支援員の活動紹介(R6年度)

第5号 私たちの暮らしが、ここにある。 令和6年7月1日発行

田村市 都路町 集落支援員だより 田村市

令和6年6月12日、小滝沢花咲会で「小滝沢集会所」にお花を植えました！



※小滝沢転作促進技術研修センター

古道地区 『集落花咲会』景観美化プロジェクト



担当支援員 森谷ハルイ

各集落を歩きながら、花がたくさん植わっているところが多いことに気づきました。それに比べ、小滝沢集落は何の花も咲いてなくて暗い雰囲気のように感じました。きれいな花が咲けば、みんなが集まってきて、集落の人の心も明るくなり元気になると思い、プロジェクトを実施しました。



令和6年2月14日撮影

田村市集落支援員の活動はSNSでも情報発信しています！

ホームページ

<https://shurakushien.asli.fukushima.jp/>



instagram



facebook



お花を植えるまでの取り組み



令和5年11月5日、小滝沢集落の皆に声をかけて、集会所の障子の貼り替えをしました。その時に、「集会所に花を植えよう！」と呼びかけ、賛同してもらいました。



令和6年3月5日、小滝沢集落に住んでいる60代～70代の仲良し4人組で集まり、花を植えるプロジェクトの計画を一緒に立てました。話し合いは3回～4回行いました。



4月の終わり頃に、岩井沢地区の仲間からペコニア、ベチニア、ひまわり、コキアの苗を買い、大事に育てました。老人会からも、マリーゴールドとサルビアを譲ってもらいました。



令和6年6月6日、小滝沢集落の花咲会メンバーが協力して、花を植えるための準備をしました。男性はつじを剪定し、女性は草むしりをし、とても綺麗になりました。

参加者の声



森谷ハルイ

夢が夢で終わらず、実現して嬉しかったです。



宗像いみ子

皆で綺麗なお花を見られて良いと思います。



渡辺イツ子

皆で元気に花植えができて楽しかったです。



吉田タイ子

自分一人じゃなく、皆でやるから楽しいです。



吉田清作

しばらくぶりの集会所の手入れは良いことです。



速藤忠吉

年取ってようやく参加することができました。



渡邊英智男

皆と一緒に植えられてとても良かったです。



渡辺正

初めての花植えでしたが楽しかったです。



木村孝男

組の一体感を感じられて良い一日でした。



森谷市男

暑い中、協力してもらって感謝しています。



ABUKUMA SUSTAINABLE LIFE INSTITUTE

田村市集落支援員設置業務受託機関

特定非営利活動法人あぶくま山の暮らし研究所

TEL/FAX 0247-75-2055 〒963-4701 田村市都路町古道字蒲生河原26番地1

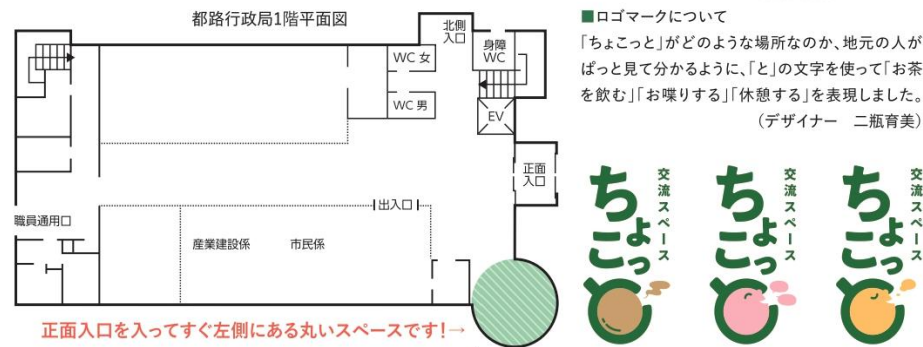
メール shurakushien@asli.fukushima.jp <https://shurakushien.asli.fukushima.jp/>



6. 交流スペース「ちょこっと」

「もっと気軽に集まれる場所が欲しい」「住民同士が交流する機会があると良い」といった住民の声から生まれた交流スペース。現在は、月1回、地元の小学校のお昼休み時間に「出張ちょこっと」を実施し、子どもたちとも交流している。

交流スペース「ちょこっと」 気軽に“ちょこっと”交流しませんか？



場所	開いてる日	できること
都路行政局1階 (田村市都路町古道字本町33-4)	毎週水曜日 10時～15時 (年末年始、祝日を除く)	● ちょこっと、お茶を飲むこと。 ● ちょこっと、お喋りすること。 ● ちょこっと、休憩すること。

■皆でつくった「ちょこっと」



田村市役所(企画調整課、財政課)、都路行政局と話し合いを重ね、交流スペース「ちょこっと」が実現しました。



「ふくしま中央森林組合都路事業所」や「都路障がい者支援センターやまびこ」と協力し、木製テーブルを作りました。

■「ちょこっと」の様子



令和6年1月31日にオープン。記念すべき1人目のお客様！



自由気ままに寛げる空間です。お喋りに花が咲きます。



簡単な打ち合わせもできます。ぜひご利用ください。



本も置いてあります。一人でのんびり、読書するのもオススメです！